

令和 4 年 6 月 7 日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02804

研究課題名(和文) 社会科前史における小学校特設教科目の実践的系譜の関連性・連続性に関する研究

研究課題名(英文) A study on the relevance and continuity of practical genealogy of the specially-installed subjects in prehistory of social studies.

研究代表者

熊田 禎介 (Kumata, Teisuke)

宇都宮大学・共同教育学部・准教授

研究者番号：90375519

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、明治期、特に第一次小学校令期以降における小学校特設教科目の実践展開を、実践の関連性・連続性の観点から考究することを目的とした実証的研究である。以上のような研究目的に基づき実施する予定であった各地の学校・図書館における調査・研究が困難となったため、小学校特設教科目(「雑科」)に関する先行研究を収集した上で、予備的調査・研究において収集してきた史・資料について整理・分析し、データベース化を行った。また、社会科前史における小学校特設教科目として代表的な直観科・郷土科・国民科等に関する先行研究の調査・収集を通して、今後の調査・研究の方向性についての基本的視座を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の研究成果の意義としては、社会科前史、なかでも明治期を中心とした小学校特設教科目に関する実践史研究として、小学校社会系特設教科目による教育の実態を実践レベルから明らかにするとともに、実践の連続性や(相互の)関連性に着目している点にある。

研究成果の概要(英文)： This study is an empirical study aimed at examining the practical development of the specially-installed subjects after the first primary-act in the Meiji era from the perspective of the relevance and continuity. Since it became difficult to conduct surveys and research at schools and libraries in various regions, I reorganized and analyzed previous research and the historical materials related to the specially-installed subjects(“Zakka”), and created a database. In addition, I gained a basic perspective on future research and research directions through research and collection previous research on the specially-installed subjects in prehistory of social studies.

研究分野：社会科教育学

キーワード：社会科前史 特設教科目 関連性 連続性 実践史

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景にある基本的な問題意識は、戦前期、特に明治期以降の初等教育段階における社会系教科目による教育の実態を実践レベルから明らかにすることにある。これには、従来の社会科教育史研究が、制度的・政策的研究や教科書研究といった研究方法に基づく狭義の内容研究に比重を置きすぎてきたことを改めて問い直す意味を含んでいる。

社会科教育史研究、なかでも社会科前史においては、これまでに多くの優れた研究成果が公にされてきた(谷口・1998年、外池・2004年、永田・2006年、等)他、戦前期における地理教育史・歴史教育史・公民教育史の各領域に関する歴史的研究についても大きな進展と蓄積を見せている(釜本・2009年、角田・2010年、福田・2012年、等)。

その一方で、社会科前史、なかでも明治期を中心とした小学校特設教科目に関する実践史研究や、その代表的な実践的系譜に位置づく直観科・郷土科・国民科等を含めた体系的・総合的研究に関しては、史料の制約や方法的困難性も相俟って、依然として開拓途上にある研究領域といっても過言ではない。

このような研究の現状と課題に鑑み、本研究において着目するのが、明治期、特に第一次小学校令期以降に各地で実践・構想されたと考えられる小学校特設教科目の実践であり、その調査・比較研究の必要性と重要性である。

2. 研究の目的

本研究は、社会科前史における小学校特設教科目の実践展開を、実践の連関性・連続性の観点から考究することを目的とした実証的研究である。具体的には、(1)明治期、特に第一次小学校令期以降における小学校特設教科目(「雑科」)の実践・構想の全国的動向を明らかにするとともに、(2)社会科前史における小学校特設教科目として代表的な直観科・郷土科・国民科等の実践的系譜のなかに位置づけることを本研究は企図している。

3. 研究の方法

以上のような目的を達成するために、本研究では、明治期、特に第一次小学校令期以降における特設教科目(「雑科」)の実践展開とその様態について、各地の学校・図書館に所蔵される実践史料および教育関係雑誌や地方教育会雑誌等の関連記事をもとに調査・分析した上で、社会科前史における小学校特設教科目として代表的な直観科・郷土科・国民科等の実践との連関性・連続性(あるいは非連続性)の側面に照射する。

4. 研究成果

(1)上記のような研究目的・方法および研究実施計画に基づいて調査・研究を進める手続きであったが、研究期間中における新型コロナウイルスの影響により、当初予定していた各地の学校・図書館における史・資料の調査・研究の実施が困難となる等、研究実施計画の大幅な変更を迫られることとなった。

特に、本研究の第2年次・3年次に予定していた第一次小学校令期以降における小学校特設教科目(「雑科」)の継続的な実践が確認できる長野県・青森県内の学校・図書館に所蔵される実践史料の調査・収集、現時点において、同じく小学校特設教科目(「雑科」)の実践の存在が確認できている福島県・茨城県内の図書館に所蔵される教育関係雑誌や地方教育会雑誌の関連記事に関する調査・収集、教育関係雑誌や地方教育会雑誌を継続的に所蔵している各地の図書館等における関連記事に関する調査・収集の実施が難しい状況となった。

(2)そこで、当初の研究実施計画を大幅に見直し、第一次小学校令期以降における小学校特設教科目(「雑科」)に関する先行研究を収集した上で、これまでの予備的調査・研究において収集してきた史・資料について整理・分析し、データベース化を行った。また、社会科前史における小学校特設教科目として代表的な直観科・郷土科・国民科等に関する先行研究の調査・収集を行った。

(3)まず、第一次小学校令期以降における小学校特設教科目(「雑科」)に関する先行研究については、継続的な実践展開が確認できる青森県内における「雑科」に関する先行研究の収集を行った。

具体的には、『弘前市史』をはじめとした自治体史、『青森県教育史』・『弘前市教育史』をはじめとした県・市教育史、県内各小学校の沿革史等の図書について調査・収集した。また、青森県内における「雑科」の継続的な実践・構想が確認できる中津軽郡和徳尋常小学校における実践に

関する先行研究や北津軽郡五所川原尋常小学校における実践に関する関連図書・文献について調査・収集し、整理を行った。

(4)また、本研究の予備的調査・研究において収集してきた史・資料については、上記の青森県や長野県・群馬県の他、「雑科」の実践・構想の存在が確認できる福島県・茨城県における関連記事を改めて整理・分析し、データベース化を行った。

以上のような研究活動と併行して、本学に所蔵される『大日本教育会雑誌』をはじめとした教育関係雑誌における関連記事に関する調査・収集、『信濃教育会雑誌』をはじめとした地方教育会雑誌における関連記事に関する調査・収集を行いながら、データベースの補訂の作業を進めた。以上のような手続きを通して、今後、調査・研究を実施する予定の史・資料についても確認・精査を行った。

(5)そして、社会科前史における小学校特設教科目として代表的な直観科・郷土科・国民科等に関する先行研究については、伏見猛彌『我が国に於ける直観教授・郷土教育及合科教授』(日獨書院、1935年)をはじめとした図書等について調査・収集を行った。その上で、社会科教育関係学会・教育史関係学会の学会誌・雑誌等における先行研究について調査・収集し、分析を行った。

また、日本社会科教育学会第69回全国研究大会(於:新潟大学、2019年)、同第70回全国研究大会(於:筑波大学、2020年、オンラインによる開催)、同第71回全国研究大会(於:福島大学、2021年、オンラインによる開催)および全国社会科教育学会第68回全国研究大会(於:島根大学、2019年)、同第69回全国研究大会(於:鳴門教育大学、2020年、ウェブサイト開催)、同第70回全国研究大会(於:広島大学、ウェブサイト開催)に参加することを通して、社会科教育史に関する最新の研究成果・動向について把握することに努めた。

(6)なお、研究期間中において実施することができなかった各地の学校・図書館に所蔵される実践史料および地方教育会雑誌・教育関係雑誌等の関連記事の調査・研究については、今後、可能な限り、実施・進展させるとともに、これらの調査・研究をふまえた研究成果を早期に公表する予定である。

引用文献

谷口和也『昭和初期社会認識教育の史的展開』(風間書房、1998年)

外池智『昭和初期における郷土教育の施策と実践に関する研究』『総合郷土研究』編纂の師範学校を事例として』(NSK出版、2004年)

永田忠道『大正自由教育期における社会系教科授業改革の研究』(風間書房、2006年)

釜本健司『戦前日本中等学校公民科成立史研究』(風間書房、2009年)

角田将士『戦前日本における歴史教育内容編成に関する史的研究』(風間書房、2010年)

福田喜彦『昭和戦前期初等歴史教育実践史研究』(風間書房、2012年)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 唐木清志・永田忠道編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 85-87, 136-138頁
3. 書名 『初等社会科教育（新・教職課程演習 第11巻）』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------